

## 編集後記

7月に入り、東京は暑い日が続いています。気象庁のデータによると、東京の今年6月の平均気温は22.8度でしたが、7月1日から6日までの6日間の平均気温は28.1度と、5.3度も高くなっています。今後、本格的な夏に向かって、さらなる気温の上昇とそれに伴う電力需要の増加が見込まれますが、東日本大震災の影響により電力供給が厳しい状況にある今年の夏は、需要サイドにおいても今まで以上の節電が求められています。

そんな中、7月7日はクールアースデー。この日は、2008年6月17日、地球温暖化対策推進本部において、毎年7月7日を地球環境の大切さを考え、低炭素社会への取り組みを推進する日として決定されたもので、ライトダウンやシンポジウムなどの事業が実施されています。このように、クールアースデーは地球温暖化対策の観点から設定されたものですが、ライトダウンは電力消費を抑えますから、一層の節電が必要となっている今年、クールアースデーにおいては、夜間のライトダウンに加え、昼間2時間（任意）のライトダウンも呼びかけられ、さらに、クールアースデー当日のみならず、6月22日から8月末日までを対象に、「昼も。夜も。節電ライトダウン2011」として、自主的ライトダウンも呼びかけられています。エネルギーは社会・経済活動の基盤ですから、今後のエネルギー政策のあり方については、しっかり考える必要があると思っておりますが、今はまず節電。少しずつでも一人一人が節電をすることで、電力供給の安定を支え、被災地の復興支援にもつながるものと思います。我が事務所でも、蛍光灯を必要最小限に削減する、昼休みの全面消灯を徹底するなど、節電に努めているところです。

また、7月7日は七夕でもあります。七夕は、皆さんもよくご存知のとおり、天の川に隔てられた彦星と織姫が年に一度会うことが許される日です。日本では、現在、西暦の7月7日に七夕の行事を行うのが一般的となっていますが、台湾の七夕は、旧暦の7月7日（今年は8月6日）。台湾では女の子達が鏡や櫛などを用意して、「綺麗になりますように」とお祈りをするそうです。また、七夕は「七夕情人節」と呼ばれ、2月14日のバレンタインデー（「西洋情人節」）とともに、恋人達の日とされます。以前は、七夕の伝説にちなみ、カップルで美しい星空を眺めながら、愛をささやく、といった日だったそうですが、現在では、ブランド品のプレゼントやフランス料理の特別ディナーを楽しむといった形が一般的となり、男性から女性にプレゼントを贈るのが台湾式とのことでした。

日本の七夕行事では、願いを書いた短冊を笹竹につるしますが、このような形となったのは、江戸時代の頃で、笹竹は古くから厄よけの力を持つ聖なる植物とされていたので、この霊力によって願いがかなうと信じられていたからだそうです。

東日本大震災から、4カ月。懸命な復興努力が続けられている中、日本各地の七夕において、東日本大震災の被災地・被災者の皆様への応援メッセージや、復興を願う短冊がたくさん掲げられることと思います。七夕の夜、まずは電気を消し、今回の大震災に際して台湾の皆様から寄せられた多くのご厚意やご支援に改めて感謝しつつ、被災地・被災者の皆様の一日も早い復興を心から願って、夜空を眺めたいと思います。

（貿易経済部長 赤堀 幸子）